

『卒業するわたしたち』

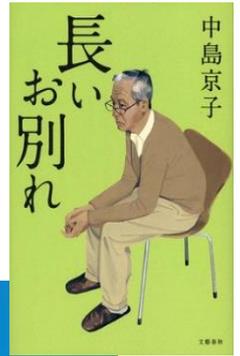


著者：加藤千恵
出版社：小学館
請求記号：913.6/かち

学校の卒業だけではない、様々な年齢、様々なシチュエーションのそれぞれの卒業模様が描かれています。

二十八歳の娘が、仲の良い母の再婚を自分のなかでようやく祝福できる気持ちに至る「母の告白」、女性アイドルグループのメンバーが脱退することを知った、ある女子ファンの心情を追った「にじむオレンジ」他、1話読むごとに胸が熱くなる、全13話の短編集です。

『長いお別れ』



著者：中島京子
出版社：文藝春秋
請求記号：913.6/ナカ

“少しずつ記憶をなくして、ゆっくりゆっくり遠ざかって行く”といわれる認知症。

ある言葉が予想もつかない別の言葉と入れ替わってしまう、迷子になって遊園地へまよいこむ、入れ歯の頻繁な紛失と出現、記憶の混濁—日々起きる不測の事態に右往左往するひとつの家族の姿を通じて、終末のひとつの幸福が描き出される。著者独特のやわらかなユーモアが光る傑作連作集。

旅立ちの季節に読みたい本

『旅立ちの日に』



著者：清水春木
出版社：中央公論新社
請求記号：913.6/シミ

東京湾を横断するフェリーが発着する港町・金谷を舞台に、約30年に亘って、紡がれる出会いと別れ、そして再生の物語。愛する妻、大好きな母を失った血の繋がらない父子。挫折し故郷に戻ったバレリーナと寄り添う書道の先生。「さよならの向う側」の著者が贈る心温まる奇跡の物語。

『卒業』

著者：重松清
出版社：新潮社
請求記号：913.6/シマ

卒業をテーマにした4つの家族の物語を収録。悲しみを乗り越え、新たな旅立ちを迎えるために、それぞれの「卒業」を経験する娘、母親、友人…。彼らの物語は、これぞ重松清！と言わんばかりの心温まるものばかり。一冊の本を通して、新しい自分を発見する旅に出してみるのはいかがでしょうか？

